第１学年　社会科学習指導案

日　時　平成１９年７月３日（火）５校時
学　級　１年２組(男子９名、女子 11 名、計 20 名)
授業者　教　諭　　本　堂　　隆

１　単元名　文明のおこりと日本の成り立ち

２　単元について

（１）教材観

本単元は、学習指導要領【歴史的分野】の内容（２）「古代までの日本」における（ア）「人類が出現し、やがて世界の古代文明が生まれたこと、また、日本列島で狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことを理解させる。」、（イ）「国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとのかかわり、古墳の広まり、大和朝廷による統一を通して理解させる。」の教材として取り扱うものである。

この時期の日本は、人類の出現から文明の発生へという世界の動きの中で、特に東アジアと深いかかわりをもち、特にも稲作の伝来によって、生活の変化、社会のしくみの変化がみられた。紀元前後、つまり弥生時代中期から、西日本の各地では、土地をめぐって激しい争いがおこり、争いに勝った集団は、征服した諸集団を配下において小国家を形成した。２世紀末～３世紀中頃に、それら小国家のうちから台頭した邪馬台国は、その後の統一国家の原形となった。このような国家形成の動きは、漢帝国を中心とするアジアの国際関係のもとで進んでいき、さらに、新しい国家形成の動きが、３世紀末～４世紀にでてきた。すなわち、近畿から瀬戸内海沿岸に突如として造られた前方後円墳に代表される古墳文化は、それまでの小国家の首長から、いっそう大きな権力をもつ王が出現したことを示している。これらの事に関しては、三内丸山遺跡、吉野ヶ里遺跡、古墳などの遺跡や銅鐸、金印などの遺物の発見による考古学の成果であり関係資料も多い。本単元は、これらの資料を活用することで、社会科教育で求められている「適切な資料活用と適正な表現力を身につける授業」「自ら学ぶ授業」の実践に適した教材といえる。

（２）生徒観

生徒は小学校の６年生で「国づくりへの歩み」の単元で「弥生時代（米づくり）」「くにづくり（卑弥呼）」「古墳時代（大和朝廷）」を学習している。入学当初のアンケートでは、社会全般が好きという生徒が４人、歴史が好きな生徒が 11 人、社会全般が嫌いという生徒が５人であったが、先行の地理分野の学習では意欲的な態度が目立ち、楽しみながら学習してきた。また、基礎・基本の定着もよく、理由づけて発表する事もできている。歴史分野の学習は、まだ日が浅く、資料から社会的事象を読み取り、考える力が弱い。しかし、アンケートで示した通り、歴史に対する興味・関心が高く、繰り返し資料活用することで資料活用能力や思考を伸ばす事ができると考える。

（３）指導観

本校の研究主題は「自ら進んで学びつづける生徒の育成」である。社会科の目標である「生徒の自ら学び、自ら考える力を育成すること」と一致している。この目標を達成するには生徒の主体的な学習活動「自ら学ぶ授業」が行われなければならない。歴史的事象に興味関心をもち課題を設定し、追究し、解決するという学習活動が必要である。本単元では、課題の追究に、古代の遺跡や遺物の写真・レプリカ、古代の中国や日本の文献など「適切な資料」を活用し、多面的・多角的な見方・考え方で、自ら課題を解決させたい。また、「適正な表現力」を身に付けさせたい。また、教材化においては小学校の学習内容を把握し内容を焦点化し、生徒の主体的な学習活動が十分にできるようにしたい。

３　単元の到達目標

（１）古代の歴史的事象に関心をもち、主体的に調べ学習を行い、課題を解決しようとしている。
＜社会的事象への関心・意欲・態度＞

（２）当時の文献資料を読み、遺跡・遺物の模型や写真の観察から古代の歴史的事象を調べることができる
＜資料活用の技能・表現＞

（３）古代の歴史的事象をとらえ、多面的・多角的な見方や考え方で歴史的背景について考察できる。
＜社会的な思考・判断＞

（４）人類が出現し古代文明が生まれたこと、日本列島で人々の生活が農耕の始まりで変化したことを理解し、国家の形成過程を東アジアとかかわりをふまえて説明できる。
＜社会的事象についての知識・理解＞

4　指導・評価計画（計５時間）

《観点》＝《関：関心・意欲・態度、思：思考・判断、技：技能・表現、知：知識・理解》

評価の方法 ＼ 時間・内容			具体の評価規準			《観点》評価手段
			A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C:B へ達成するための支援	
人類の出現と日本列島	1	★人類の進化に興味を持ち、直立歩行と共同労働がどのような役割を果たしたのか調べる。	人類が共同作業で食料を確保し、狩猟・採集生活から農耕・牧畜生活へと変化していく過程に関心を持ち、意欲的に調べ、適切な表現でまとめようとしている。	人類が共同作業で食料を確保し、狩猟・採集生活から農耕・牧畜生活へと変化していく過程に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。	当時の食料を具体的に示し、狩猟の困難さ、危険性を示し、農耕・牧畜生活の良さを考えさせる。	《関》 観察 学習シート
		★人類はきびしい自然環境の中で道具を発展させ、農耕・牧畜を始めて、暮らしを進歩させたことに気づく。	人類がどのように道具を発達させたかを考え、暮らしを豊かにするためにどのような工夫をしたかを多角的に考察し、適切な表現でまとめることができる。	人類がどのように道具を発達させたかを考え、暮らしを豊かにするためにどのような工夫をしたかを多角的に考察できる。	具体的な道具を提示し、食料変化・生活変化と結びつけて考えさせる。	《思》 観察 学習シート
文明の発生と東アジア	2	★中国・エジプト・メソポタミア・インドの古代文明に関心をもち、どのような特色と共通する要素をもって発展してきたか調べる。	世界の文明がそれぞれの地域の人びとの知恵と大河などの大自然のめぐみとともに発展していくことに関心をもち、意欲的に調べ、適切な表現でまとめようとしている。	世界の文明がそれぞれの地域の人びとの知恵と大河などの大自然のめぐみとともに発展していくことに関心をもち、意欲的に調べようとしている。	世界の文明の古代遺産を説明し、興味・関心を喚起させる。	《関》 観察 学習シート
		★中国文明が興り、統一専制国家が成立したことにより、周辺地域に与えた影響を考える。	中国文明が朝鮮・日本に与えた影響を考え、他の文明もその周辺地域に影響を及ぼし合いながら，発展していることを考察し説明できる。	中国文明が朝鮮・日本に与えた影響を考え、他の文明もその周辺地域に影響を及ぼし合いながら，発展していることを考察することができる。	春秋戦国時代が日本のいつ頃にあたるか考えさせ、日本への影響を考えさせる。	《思》 観察 学習シート
縄文文化と弥生文化	3	★人々の暮らしが、旧石器時代・縄文時代・弥生時代でどのように変わったかに関心をもち、道具などの遺物を通して調べる。	人々の暮らしが旧石器時代・縄文時代・弥生時代でどのように変化したかに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、説明しようとしている。	人々の暮らしが旧石器時代・縄文時代・弥生時代でどのように変化したかに関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	各時代の遺物の特徴と使い方を考えさせる。	《関》 観察 学習シート
		★大陸からどのように稲作や金属器が伝わったのかを考えさせるとともに、北海道や沖縄には独自の文化が生まれた理由を考える。	大陸から稲作や金属加工の技術がどのように伝わったかを考察し、国内ではどのように広がりを見せたかを考察でき、説明できる。	大陸から稲作や金属加工の技術がどのように伝わったかを考察し、国内ではどのように広がりを見せたかを考察できる。	遺物の特徴から弥生人の移住と稲作の関係を気づかせる。	《思》 観察 学習シート
	4	本時（別紙参照）				

古墳文化と大和政権	5	★近畿地方の豪族が大王を中心に大和政権をつくり、国内統一を進めたことを、古墳の広まりなどから判断する。	巨大古墳の規模の壮大さを知り、そこに葬られた人物や副葬品などに関心をもち、調べ、その意味を説明できる。	巨大古墳の規模の壮大さを知り、そこに葬られた人物や副葬品などに関心をもち、調べることができる。	古墳の巨大さに興味を持たせ、造られた理由や副葬品の意味を考えさせる。	《技》 観察 学習シート
		★各地に残る地名や神社などから、漢字・仏教・新しい技術などを伝えた渡来人が果たした役割や、当時の人々の信仰を理解する。	大和政権の成り立ちとしくみ、渡来人が果たした役割について、事実をいくつかあげて説明することができ、東アジアとかかわりの重要性を指摘できる。	大和政権の成り立ちとしくみ、渡来人が果たした役割について、事実をいくつかあげて説明することができる。	大和政権と朝鮮半島・中国との関係を説明し、渡来人が伝え、現在に影響を与えているものを考えさせる。	《知》 発言 学習シート

5　本時について

（１）目標

ア　資料に関心をもち、弥生時代の社会について意欲的に調べようとしている。

＜関心・意欲・態度＞

イ　中国歴史文献から弥生時代の社会の変化について考えることができる。

＜思考・判断＞

（２）評価方法

《観点》＝《関：関心・意欲・態度、思：思考・判断、技：技能・表現、知：知識・理解》

評価の方法 ＼ 時間・内容			具体の評価規準			《観点》評価手段
			A：十分満足できる。	B：おおむね満足できる。	C:B へ達成するための支援	
国々の誕生と邪馬台国	4	★金印に関心をもち、弥生時代の社会について調べる。	金印に関心をもち、当時の倭と社会について意欲的に調べ、中国との関係を説明しようとしている。	金印に関心をもち、当時の倭の社会について意欲的に調べようとしている。	金印を実際に押させ、漢字であることを確認し読み方を考えさせる。	《関》 観察 学習シート
		★中国歴史文献から弥生時代の社会の変化を考える。	当時の倭には多くの国があり、その支配者たちが中国に使いを送った理由を考えることができる。	当時の倭には多くの国があり、互いに争っていたことを考えることができる。	いくつかの古代中国歴史文献から倭の国の数を比較させ少なくなってることを気付かせる。	《思》 発言 学習シート

（３）指導の構想（研究の重点とのかかわり）

ア　基礎的・基本的な内容の定着を図る繰り返し、振り返り学習の設定と工夫

・授業開始時に前時の復習を行い知識的な既習事項の確認を図る。

・授業全体で、既習事項をできるだけ利用し、その都度説明を求める。

・授業の終わりに振り返り学習で定着を図ったり、宿題として基礎的・基本的な問題に取り組ませたりする。

イ　評価規準表を有効に活用した目標と指導と評価の一本化

・本単元は、本格的な中学歴史学習のはじめであり、「意欲・関心」に重点を置いたものや、まとめを自ら考えられる「思考・判断」に重点を置いたものを中心に「評価規準 B」を設定した。本時もその目標にあった資料を用意し、学習課題を設定し、自己評価に反映されるように考慮したい。

ウ　学習内容を確かに定着させるための「能動的なかかわり合い」

・本時では、「能動的なかかわり合い」は、自分の意見を他生徒に聞いてもらい、他生徒の意見を聞いて自分の意見を考え直すという生徒同士のつながりを中心に考えた。その過程で学習内容、特にも社会的な思考・判断の向上につながるようにしたい。

（4）展　　開

段階	学習の流れ ★生徒個々の意識	学習活動 生徒の活動	指導上の留意点
導入 5分	1　振り返り ★思いだそう	●プリントの答え合わせにより前時の基礎的・基本的事項の復習をする。 （縄文時代と弥生時代の生活の変化）	・宿題のチェックと答え合わせを行い、前時の基礎的・基本的学習事項が定着しているか確認する。
	2　課題の把握 ★１時間の流れはどうなるのか	●本時の課題を確認する。	
	稲作がはじまり、弥生時代の社会はどう変化していったのか。		
展開 35分	3　予　　想 ★たぶん～だろう	●予想を考える。 ・国ができた。 ・争いがおこった。 ＜「・」は期待する生徒の反応。以後も同様＞	・「文明の発生」、小学校「むらからくにへ」で学習したことを想起させながら、考えさせる。
	4　見通し確認 モデルの理解 ★どうすればできるのか ★どのようにやればよいのか	●金印について考える。 ・何と書いてあるのか。 ・誰がつくったのか。 ・誰のものか。 ●『後漢書』から「漢委奴国王」の意味を指摘できる。 ・奴国が、貢ぎものの代わりに、漢の皇帝から授かったもの。	・グループ毎に金印（レプリカ）を配り、金印について考えさせる。 ・「漢委奴国王」の文字に注目させる。 【評価】関
	5　個々の課題追究 6　能動的なかかわり合い ★よりよいものを考えたい★確かめたい★認められたい★教えたい	●金印を授かった、弥生時代の社会の様子を考える。 ・多くの国があった。 ・争いがあった。 ・中国の後ろ盾が欲しかった。	・なぜ、中国との関係が必要であったかを考えさせ、当時の社会の様子を考えさせる。 ・グループで意見交換させる。 【評価】思
	7　課題解決 ★達成感 ★自信	●『漢書』『後漢書』『魏志倭人伝』から弥生時代の社会の変化を確認する。 ・多くの国があった。 ・争いがあった。 ・邪馬台国のような大きな国が出現した。	・当時の社会の様子を検証、補足し、卑弥呼についてもふれる。
終末 10分	8　まとめ	●本時のまとめをする。	・生徒自身にまとめをさせ、グループで読み合い発表させる。
	弥生時代には多くの国があり、その国々が互いに争い、 しだいに、大きな国が出現するようになった。		
	9　次時の予告 自己評価 ★何ができたか ★学習意欲 ★向上心	●「倭王武の手紙」「大仙古墳」から、大和政権のしくみに興味をもつ。 ●基礎的・基本的学習事項の問題を解くことができる。	・自己評価をさせる。 ・次時の内容に興味をもたせる。 ・時間によっては宿題とする。